

Top Interview

学びつづける会社 見えない要望に応える

株式会社アイベック
代表取締役社長

吉岡 裕一 氏



構造物や設備機器の検査を行う会社として1976年の創業です。

現会長の高見貞徳が「富山検査」として創業しました。その2年前には水島コンビナートの石油タンクが破損し、深刻な重油漏れが発生する事故があり、検査の必要性が認識され始めていた頃です。

具体的な仕事内容を教えてください。

創業時から行っているのが、鋼構造物などを壊さず検査する「非

破壊検査」です。1995年の阪神淡路大震災以降、建設鉄骨に第三者検査機関による検査確認が義務づけられ、必要性が認識されるようになりました。X線による鉄鋼溶接部の検査に始まり、金属表面の細かい傷やヒビを探す探傷検査、タンクなどの板厚の超音波測定など多岐にわたります。

最近増えているのが「診断・計測」部門です。急速にインフラ整

備が進んだ高度経済成長期から半世紀が経過して老朽化が問題視され始め、土木構造物、特にコンクリートの劣化や損傷に対する調査診断の需要が増えてきました。これらの橋梁・トンネル等の主要インフラ施設や発電所・石油化学プラント・鉄道施設やスキー場等数々の現場で目的に合った測定装置を用い、診断を行っています。

その他、検査機器を自社開発し、販売もしています。

現在、売上高は約8億円で、部門別では「非破壊検査」が50%超、「診断・計測」が約35%、「開発・販売」が10数%となっています。

一品質・安全重視の時代に—
事業内容が多岐にわたっています。どのように拡大されてきたのでしょうか。

私が入社した1990年当時は30人程度の規模でしたが、会長は大きな夢を持ち「お客様からの要望に応える。出来ないことは考えて必ず対応する」というチャレンジ精神で取り組んできました。時代が生産一辺倒から、次第に品質や安全を求めるようになり、検査も多様化し、当社も事業内容を拡大してきました。

専門分野だけの検査を行う会社が多い中で、当社は現在、北陸唯一の総合診断会社として日本溶接協会の非破壊検査事業者のうち、最高位のAランクとして認定を受けています。

機器の販売もされています。

検査に使う機器は専門メーカーから買うのですが、検査ごとに高額な機器を揃えなければなりません。その上、使い勝手の良くないものや、検査基準が改正されると性能が不足することなどがあり、現場で使用できる立場から機器の開

発にも取り組んできました。

10年前に開発した地下タンク漏洩検査機は北海道から沖縄まで、全国に300台を販売するヒット商品になりました。2012年の笹子トンネル崩落事故後は、アンカーボルトの強度を検査する試験器が注目されています。同様の試験器は従来からありましたが、重くてトンネルの天井などには使えないようなものではなく、小型で軽量なものを自社開発しました。

お客様の要望や意見に応じてきた結果、現在の営業品目は50品目に上ります。

—技術力の根底に道徳観—
多様な業務を支える人材育成はどのようにされていますか。

私も中途入社ですが、技術と経験のある人を採用し、事業領域を広げてきました。ゼネコン、土木、電気関連など多様な業種の出身者が、前職での技術をベースに勉強を重ねて技術を高めています。現在、技術士3名を含め、建築、土木、電気など各種技術者がいます。

新卒者も毎年採用しています。若い技術者には会社の求める技術、本人の希望や個性を踏まえて、現場を経験させています。技術は座学だけで得られるのではなく、仕事の中で身につくもの、現場でのOJTが一番だと考えています。

略 歴

1949(昭和24)年6月生まれ。氷見市出身。愛知工業大学卒業後、川田工業(株)勤務を経て1990年富山検査(株)(現アイベック)入社。92年常務、96年専務を経て、2004年代表取締役社長に就任。2010年アイベックに社号を変更。

その上で、全社員がどの技術をどのレベルで持っているか一覧にし、半年ごとに全社員が上司と面談の上、「個人目標管理シート」を作成し、仕事・技術から日常の目標を設定しています。資格は平均でも5~6、多い人は20程度を保有しています。

社員教育で心がけていることは。

技術はもちろん大切ですが、一番大切なのは道徳観です。検査は形にならない仕事なので、値段が分りにくい。価格競争になって手を抜くようでは信頼が得られませんし、まして不正があっては致命的です。利益はお客様との信頼関係から得られると論じています。

昨今、ようやく検査に対する価値が社会から認められ始めましたが、検査の本質を理解し、検査の内容を守って行かなくてはなりません。朝礼では倫理研究所の「職場の教養」を読み上げ、また「場を浄める・時を守る・礼を正す」という言葉を朝の確認として唱和しています。

今後の展望を教えてください。

生産第一から安全・安心の時代になりましたが、検査に対する認識はまだ高くありません。2010年、現場を経験だけでなく、内容を評価し、将来を見越した保守や設計を総合的に提案するコンサルティング会社を目指し、社名を「アイベック」(株)に変更し

ました。

また、多様な検査ノウハウを生かし、インターネット対応モニタリングシステムを開発しました。工事現場や検査対象物にセンサーを取り付け、現場の気象観測や振動測定、亀裂の変異などをインターネット経由で監視、記録できる仕組みです。このシステムを応用して京都市バスの運行状況や乗り換え案内、多言語でガイドも行うバスガイドシステムも作りました。

経営理念に掲げる「百年の大計人と公」の通り、人も会社も常に学び続け、百年後も輝き続ける会社でありたいと思います。

座右の銘は。

「森羅万象 皆我が師」です。世の中のであらゆることから学ぶことが出来ると言いつけて、人との出会いを大切にしています。世の中がどうなっているか、自分で考えても限界があります。人とのちょっとした会話の仕事のヒントになることもよくあることです。社員にも座学での技術の習得だけでなく、お客様から学ぶ気持ちを持ってもらいたいと思っています。

※…アイベック (IPEC)
I…Inspection 検査・調査・点検
Infrastructure 社会基盤インフラ
P…Preservation 保全
E…Engineer エンジニア
C…Consultant コンサルタント

会社概要

株式会社アイベック

創 業：1976(昭和51)年
所 在 地：富山市上野新町5番4号
資 本 金：3,000万円
事業内容：非破壊検査・計測・環境計量・診断調査・補修コンサルタント・検査機器レンタル・検査機器販売
従業員数：70名(2014年9月現在)
売上高：8億円(2014年3月期)
U R L：http://www.ipec-com.jp



朝の確認の言葉などを掲げた朝礼の場で